



## 月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

### 第28号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

### 〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ：「死人が神の子の声を聞く」エレミヤ
- ◎聖書と日本「目からうろこが落ちる」
- ◎イエス・キリストに出会う 「12年間、病に苦しんだ長血の女」
- ◎キリストを信じた体験談：「エアコン」S
- ◎聖書を信じた有名人のことば：ジョン・アダムス（アメリカ第6代大統領）
- ◎聖書贈呈

### ＜聖書からのメッセージ＞

#### 「死人が神の子の声を聞く」by エレミヤ

本日は、「死人が神の子の声を聞く」という題でメッセージしたいと思います。テキストは以下の箇所です。

ヨハネ5:25 まことに、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。

5:26 それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにしてくださったからです。

ここでは、死人が神の子の声を聞くときが来ること、そして聞くものは生きる、ということが書かれています。あまり聞いたことのないことばですが、これらのことばの意味合

いは何なのでしょう？このことを考えてみましょう。

聖書の中には実際に肉体が死んで死体となり、墓に葬られた人がキリストのことばを聞いて生き返った話が書かれています。ヨハネ伝に書かれたラザロの話です。この話の様に実際に死んでしまった肉体が、もう一度生き返る、という意味合いも少しはあるかもしれません。

しかし、今回のテキストが語っていることはもう少し広い意味合いがあるように思えます。聖書のいうことばの定義と我々が常識的に持っている定義とは、少し異なることがあります。この死人ということばに関してもそうであり、我々が思っている定義と少し異なるように思っています。少し説明します。聖書によるなら、最初の人間の名前はアダムでありエバです。全ての人はこの2人を父とし、母として生まれてくるのです。

## 「死人が神の子の声を聞く」エレミヤ

そして、聖書によるなら、この最初の父母であるアダムとエバは死人であり、その結果私たち彼の子孫も同じく死人なのです。

何故そのように断定的にいえるかという神はアダムに対してエデンの園でこう警告していたからです。

**創世記2:17 「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」**

神がこのように断定的に警告するとき、それはこけおどかしでなく、実際に実現する警告であることを知ってください。そして、残念ながら、その後、アダムもエバもこの実を食べてしまいました。その結果、彼らは「死ぬようになった、死人になった」と理解するのが聖書的には正しいのです。

何故なら、そう見えないとしても神のことばが正しいからです。彼らの肉体は、確かにその実を食べたとたんにボタンと倒れて死んでしまったわけではありません。しかし、神のいう「必ず死ぬ」ということばが無効になったわけではないのです。

アダムは聖書によれば、900歳以上生きました。また私たちの寿命も長生きすれば100歳まででも生きることができます。結構長生きできているかもしれません。しかし、死とは、肉体上のことだけをさしているのではないのです。

神が「この実を食べるとき必ず死ぬ」というとき、そのことばは正しく、たとえ私たちのからだは健康であっても私たちは、神の前には実質死んだものであり、死人となってしまった、と理解するのが正しいのです。アダムはその時より死んだものであり、アダムの子孫である私たちも神の前には死人となってしまった、と理解するのが正しいのです。

そして、人間の人生に起きる問題とは私たちが死人であるから起きてくる問題が多いのです。

死人ということを考えてみましょう。死人となると、もう見ることも聞くことも歩くこともできません。同じように、私たちも神の前に死人となると、もう真理を見ることも神を見ることも正しく歩むこともできないのです。たとえ肉体は健康であっても。

私たちは自分では正常であり、生きており、何の支障も問題もなく、正しい認識、正しい目を持っている、と自分では思っていることが多いです。そして、そうであるのに、その正しい目とは実は間違っただ目だったり、その感覚も死んで間違っただ感覚であることもよくあることなのです。

一つ例を挙げます。あまり個人のことをあげるのには本意ですが、最近ある都知事さんのことが問題になりました。その都知事さんは優秀な人なのですが、しかし、彼の常識や感覚には問題がありました。彼は毎週末温泉地にある別荘に通っていたのですが、それを都の公用車で行っていたのです。彼自身の感覚や常識的に従うならこの行為は全く問題なく、何の問題もないのです。しかし、彼の常識は他の人の感覚とだいぶずれていました。そのため、多くの人から批判され、結局は都知事を辞職するようになってしまったのです。

かくのごとく、彼の持っている「健全な常識」や、「良識」はだいぶずれていました。あるべき線からかなりずれていたのです。そして、彼自身は自分は全く正しいと思っていたのです。

うまく説明できているかどうかわかりませんが、聖書で言う死とはたとえば、この例の様に、私たちの感覚や常識、良識や見るべき目に及びます。結果、私たちは正しいことを見ることができなかつたり、本来聞こえてしかなるべき神の声が聞こえなかつたり、という状態に陥るのです。

## 「死人が神の子の声を聞く」エレミヤ

日本の多くの人がこの都知事さんを非難しました。しかしその様に非難する私たち自身もどこかで、ずれていたり、見えるべきものが見えなかったり、異常だったり、ということがあるかもしれません。いいえきっとあるのです。そして、そうである理由は、私たちが神の前に死人だからなのです。

しかし、そのような死人である私たちが神の子すなわち、キリストの声を聞くときがきます。そして、その声を聞く人は生きるようになるのです。すなわち、今までの死んだような状況、正しい良識や、常識がない状態から生かされ、蘇るようになるのです。

このように書くとなだの理想的な話、精神論や、決意の問題の様に聞こえるかもしれませんが、そうではありません。私たちがたとえ、死人であったとしても、それでもキリストの声を正しく聞くとき、生き返るとは事実なのです。

例をあげます。三浦綾子さんは有名なクリスチャン作家です。彼女もこのいわば、「死人が神の子の声を聞き生き返る」という経験をした人です。

彼女は戦前、熱心な女性教師だったということです。戦前の神国日本の教育を熱烈な情熱で子供たちを教えていた、ということなのです。しかし、戦後になり、戦前の生き方や教えを全て否定するような風潮の中で、彼女は自分の信じていたことが間違えであることを知り、絶望し、虚無的な生き方をするようになりました。

自暴自棄的な生き方の中で、一度に2人の人と婚約するようないいかげんな生き方になってしまったのです。そして、ついに病の中に倒れてしまいました。しかしその病の中で彼女は幼なじみの男性を通して、キリストを

知るようになりました。そして、キリストを信じた後、彼女の生き方は一変してしまったのです。いわば死人が神の子の声をきいて生き返るような歩みに入ってしまったのです。

その後、彼女は多くの聖書的な視点に沿った小説を発表し、それを通して、多くの人が自分の生き方を変えられたり、強められたりしました。彼女の本は累計4000万部以上、発行されたということです。

彼女の書いた小説の中には、聖書的なメッセージが多く含まれています。彼女自身が

キリストによって変えられたので、多くの読者にそのことをわかって欲しいとの願いから書かれたのでしょう。たとえば、彼女のデビュー作「氷点」とは、人の心の氷点、

すなわち、聖書で言う人のうちにある原罪をわかりやすく語る小説でした。

虚無的だった彼女、人生に絶望していたいわば死人の様な歩みをしていた彼女は、確かに神の子であるキリストの声を聞いたとき生き返り、その歩みが一変したのです。ですので、どうぞ、聖書に書かれていることばは、単なる気休めや名言として書かれているのではなく、そのことばを正しく聞いた人はその人生が一変する、このことを知ってください。



三浦綾子

## 聖書と日本「目からうろこが落ちる」

実は聖書は私たち日本人にとって決して遠い存在ではなく意外に近いものなのです。

「目からうろこがおちる」。これはよく知られている言葉ではないかと思えます。何かがかきかけで急に物事の実態がよく見え理解できるようになるという意味です。新約聖書の使徒9章1～21節にある出来事がもとになっています。そこに登場する使徒パウロは当時異邦人のヨーロッパの白人にキリスト教を伝え、活躍した聖徒です。しかしパウロ(サウロ)は、はじめキリスト教徒を迫害していました。

使徒9：1～2 さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるようにたのんだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

とあります。そしてサウロ(パウロ)がキリスト教徒を捕えるためにダマスコという町に行く途上、天から光が彼を巡り照らし地に倒れてしまいます。

使徒9：4～6 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声をきいた。

彼が、「主よ。あなたはどなたですか」というと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」

使徒9：8～9 サウロは、地面から立ち上がったが、目が開いていても何も見えなかった。そこで、人々は、彼の手を引いて、ダマスコに連れて行った。彼は三日の間、目が見えず、また飲み食いもしなかった。

実はパウロという人はユダヤ人の中でも、超エリートでした。彼はユダヤ人の中でも名門で、最も教養があるパリサイ人であり、生まれながらローマの市民権を持ち、その将来を約束されていた人です。自信満々で、キリスト教徒を捕まえようとダマスコに出かけたパウロでした。しかしその途上、主イエスになぜ迫害するかと非難され、地に倒れ、突然目が見えなくなり、人に手を引いてもらわないと歩けないという非常に厳しい状況に陥り

ました。彼は完全に打ちのめされ憔悴しきっていたのでしょう。その後、ダマスコにいるアナニヤというイエスの弟子が、幻の中で、主イエスからサウロのところに行き彼の為に祈るように命令されます。

使徒9：17～19 そこで、アナニヤは、出かけて行って、その家に入り、サウロの上に、手を置いてこういった。「兄弟サウロ。あなたの来る途中、あなたに現れた、主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。」すると、ただちに、サウロの目から、うろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。かれは、立ち上がって、バプテスマを受け、食事をして元気づいた。

とあります。アナニヤが祈ると、サウロの「目からうろこのような物が落ち」、とあります。これが、目からうろこの語源です。そして、迫害者サウロは、どうなったのでしょうか。

使徒9：20 そして、ただちに、諸会堂で、イエスは神の子であると述べ伝え始めた。

とあります。全く別人のようになりました。あまりのパウロに変わりように、人々は、「この人は、迫害者であった人でしょう！」と驚愕したのです。

イエス・キリストが神の子であるということを知り、真実に目が開かれたパウロはそれから、使徒パウロとして大使徒と呼ばれるほどの、大きな働きをしました。

この「目からうろこ」という言葉の裏には、このような出来事があったのです。

主イエスこそ私たちの救い主、ということが「目からうろこがおちる」という言葉の中にかくされているのです。



パウロ

## イエス・キリストに出会う 「12年間、病に苦しんだ長血の女」

イエス・キリストは2000年ほど前、イスラエルに救い主として来られました。そして現在の私たちは、聖書を通してイエス・キリストに出会うことができます。では、主イエスはどのような方なのでしょう。マルコ5章で、イエスに出会った長患いの長血の女のこと記されています。

マルコ5：25～34

ところで、12年の間長血をわずらっている女がいた。この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっただけでなく、かえって悪くなる一方であった。彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。「お着物にさわることでもできれば、きっと治る」と考えていたからである。するとすぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、からだにかんじた。

イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行ったことに気づいて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわったのですか」と言われた。そこで、弟子たちは、イエスに言った。「群衆が、あなたに押し迫っているのをご覧になっていて、それでも『だれが、わたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。イエスは、それをした人を知ろうとして、見回しておられた。女は恐れおのけ、自分の身に起こった事を知り、イエスの前へ出て、ひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。そこで、イエスは、彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」

ここで12年間も長血の病に苦しむ女が出てきます。当時、長血は汚れているとされ(レビ記15章25節)、汚れを持つ者は人から離れて生活をしなければならませんでした。女は人目を避けて孤独な生活していたのでしょう。しかも多くの医者にひどい目にあわされ、財産も使い果たし、病はひどくなる悲惨な状況です。そんな時、イエス・キリストが来られる

ことを聞き、女はイエスなら必ず癒してもらえると信じたのです。

町は群衆で埋め尽くされ、イエスの所には人々が押し寄せ、押し合いへし合い状態です。長血の女が群衆に紛れイエスの着物に触れた時、病は癒されました。イエスもそれを感じ、自分に触った人を捜そうとされます。しかし、多くの人々がイエスを触っていたので、弟子たちは理解できません。それでもイエスは、懸命にあたりを見回されています。群衆の中でただ一人、信仰を持って自分に触れた長血の女を主イエスは探しておられました。

長血の女は汚れた病の故に人々の前に出られないと思い、ひっそりとその場を立ち去ろうとしたのでしょう。しかしイエスが自分を探しておられることで、全能の神の力に恐れを持ちます。そしてイエスの前へ出たのです。イエスは長血の女に対して「病気にかからず健やかでいなさい」と優しく語りました。このように主イエスは、苦しむ人を慰め、癒し、解放してくださるのです。

そして、ここでの「長血」とは単に体の病気というだけでなく、人の心から離れない罪の喩えとしてとらえることができます。人の心には中々離れることができない罪の心、悪意や怒りや妬み憤りというものがあります。ガラテヤ5；19～21では「肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。」とあります。そういった汚れた罪の思いから、主イエスを信じた者は解放されるのです。

そして、イエスは長血の女に対するように、助けを求め信じる人と個人的に深く交流されたいと願っておられるのです。主イエスにとって、一人一人がとても大切な存在なのです。



長血の女

## キリストを信じた体験談 「エアコン」 by S

今年は例年に比べて初夏の訪れが早く、我が家では5月上旬からエアコンを使っていました。

ちなみに現在居間で使用しているエアコンは今年の5月で、まる11年になります。その間、何度か不具合が生じたので、その都度修理を依頼しました。でも、10年保障が付いていたので、ほとんど修理代はかからず大半は無料で直していただいたり、部品を交換していただいたりしていました。

ところで、その時の気候にもよりますが、暑い日が続く時期には、使用時間約300時間をメドに定期的にエアフィルターやオープンパネル、ルーバーユニットの手入れをします。元来ものぐさな私は放っておきたいところなのですが、しかし万が一ほこり等がつまってしまうと機能が低下したり、効き目が悪くなったりするので、やむを得ずと言ってはなんですが、その際には手入れをするようにしています。そんな中、先月いつものように手入れをしていた時のことです。まずはオープンパネルを開き、エアフィルターを取り出してほこりを落とした直後にルーバーユニットを外して内部を清掃します。ちなみにルーバーユニットには3カ所「つまみ」が付いているのですが・・・その時になんと一番右のつまみの一部が破損して、絨毯の上に落ちてしまったのです。しかもオープンパネルの「軸」の部分の一部も破損してしまい、それも絨毯の上に落ちていました。じつは以前もルーバーユニットが思うように作動しなかったことがあって、そのためにリモコンで停止ボタンを押した際にうまく「羽」が元の位置

に収まらずに困ったことがありました。そして今回も同じような現象が起きてしまいました。かつては保障期間内だったため、無償で新しいものに交換していただいたのですが、今回は過ぎていたので実費で修理を依頼しなければいけません。あるいはルーバーユニットを購入しなければいけません。さて、どうしよう？ここは考えどころでした。と、言うのは、今の時代、家電製品において「エコ」が推進されているので、年数も経ているので新しいエアコンに買い換えたほうがお得なのでは？なんていう風に頭がよぎりました。じつは我が家において以前からその話が持ち上がっていたので、「どうしましょう？」と思いました。しかもルーバーユニットだけの問題なら良かったのですが、オープンパネルの軸のこともあるので、果たしてルーバーユニットだけを交換したところで、元の通り停止した際にうまく作動してくれるかどうかの保障はありません。ある意味、賭けになります。

その時、神さまの導きで少し祈りました。「どうすれば良いでしょうか？」と。そしてほどなくして、ルーバーユニットの値段を近所の電気屋さんに問い合わせしてみました。するとルーバーユニットは¥3,780ですぐに手に入る、ということでした。でも、オープンパネルのことがあったので、少し考えさせてもらうことにしました。そのことを家族に話してみると、「ダメもとで、ルーバーユニットだけ購入してみよう！それでうまくいかなかったら新しいエアコンを考えよう！」ということになりました。私もそれが妥当だと、その時に思いました。その日は遅かったので、翌日取り寄せてもらうために電話をすること

## キリストを信じた体験談 「エアコン」 by S

した。ただ、もう一度だけ、念押しで神さまにお祈りしました。「本当にそれでよろしいのでしょうか？」と。そしてその日は休みました。

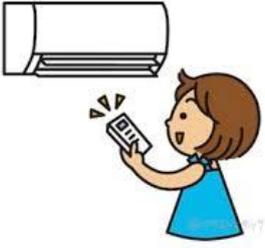
翌日になって、そろそろ電話をしようと思っていたその時でした。突然家族が「そう言えば、破片は残っている？」と聞いてきたので「ああ、まだあるよ」と言ったら、「これを接着剤でつけてみよう」ということになりました。市販の少し強力なタイプのものでしたが、乾くのには少し時間がかかりました。待つこと30分、少しグラついていたのですが、そのままいつものように取り付けてみました。そしてリモコンの停止ボタンを押してみました。すると・・・なんと！「羽」の部分がうまく閉じたのです！はじめだからかなぁ、と思って、二度、三度と、付けては停止するという動作を繰り返したのですが、大丈夫でした。そして「しばらく様子を見てみよう。もしかすると掃除の時に、またダメになる可能性もあるから。」ということになりました。

それから何週間か経って、300時間が経過したのでいつものように手入れをすることになりました。「もしかしたら、ルーバーユニットを外したら元に戻ってしまうかも」なんていう若干の不安を抱えながらも、全く同じように行って、最後に取り付けたのですが、特に問題はなく、「羽」もきちんと閉じられました。「しばらく様子を見てみよう」ということになってから、お手入れをする期間まで「元に戻ってダメになることはありませんように」と毎日祈っていたのですが、神さま

がそのお祈りに答えてくださったのです。この件でも助けられ、本当に感謝でした。元々、ルーバーユニットという部品は消耗品らしく、大体3,4年で交換するみたいですが、前回交換していただいたのは7,8年ほど前のことでした。そう考えると、それ自体奇蹟のようなものですし、しかも今回簡易的に修理をただけで、再び快適に使わせていただけようになって、これもまた、神さまの不思議と力と奇蹟のおかげだと思いました。もちろんいずれ壊れる時は来るとは思いますが、その時まで今後も神さまに感謝して使用させていただけたらなぁと思いました。

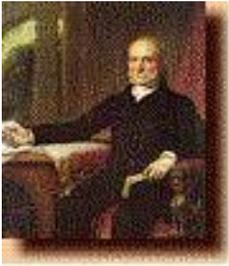
今回も神さまを頼って本当に良かったと思いました。今後もどんな些細なことであっても、すぐに神さまに助けや力を祈り求めていきたいと思いました。最後に神さまは頼るに値するお方だということを推奨しているワーシップソングがありますので、歌詞を紹介して証を終わりにしたいと思います。

我らの主に向かって、新しい歌を歌おう、喜びの声をあげよ、主は我らの勝利  
我らの主に向かって、新しい歌を歌おう、喜びの声をあげよ、主は頼れるお方  
イエスは主、イエスは主、この賛美もってほめたたえよ、  
イエスは王、イエスは王、この賛美もってほめたたえよ  
※プレイズ&ワーシップの『我らの主に向かって』より



エアコン

## 聖書に関する有名人のことば：ジョン・アダムス (アメリカ第6代大統領)



「全宇宙的な注目を受けるべき最初のそして、ほぼたった一つの本は、  
聖書である..私は何年もの間、  
年に一度は聖書を通読することを習慣としている」

---

### <お知らせコーナー>

#### ●聖書贈呈プレゼント！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

郵便番号:

住所:

名前:

#### ●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

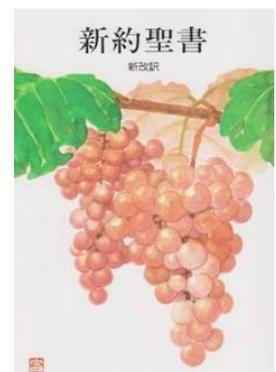
見本

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00

場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com



#### ★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>